

1-1 北海道とその周辺の最近の地震活動 (1992年6月~11月)

Recent Seismic Activity in and around Hokkaido (June–November, 1992)

北海道大学理学部

Faculty of Science, Hokkaido University

この期間の浅発地震の震央分布を第1図に示す。7月と8月は地震活動が活発であった。30kmより浅い地震が図の領域全体で多くなっているが、時空間でとくに著しく集中して発生した地震群はなかった。図の領域からは外れているが7月10日にエトロフ島付近でM6.4 ($h=65\text{km}$)の地震が発生し、12日には青森県東方沖でM6.3 ($h=63\text{km}$)の地震が発生した。また、8月24日には駒ヶ岳付近でM6.3 ($h=121\text{km}$)の地震が発生し余震も観測された。北海道太平洋沿岸の地震活動は定常的で、いまのところ地震活動空白域も認められない。

千島列島南部から三陸沖にかけて、比較的短い期間に同時に地震活動が活発化することがよくある。1991年12月と1992年7月に発生した地震活動域を第2図に示し、このような地震活動の事例を第1表にまとめておく。

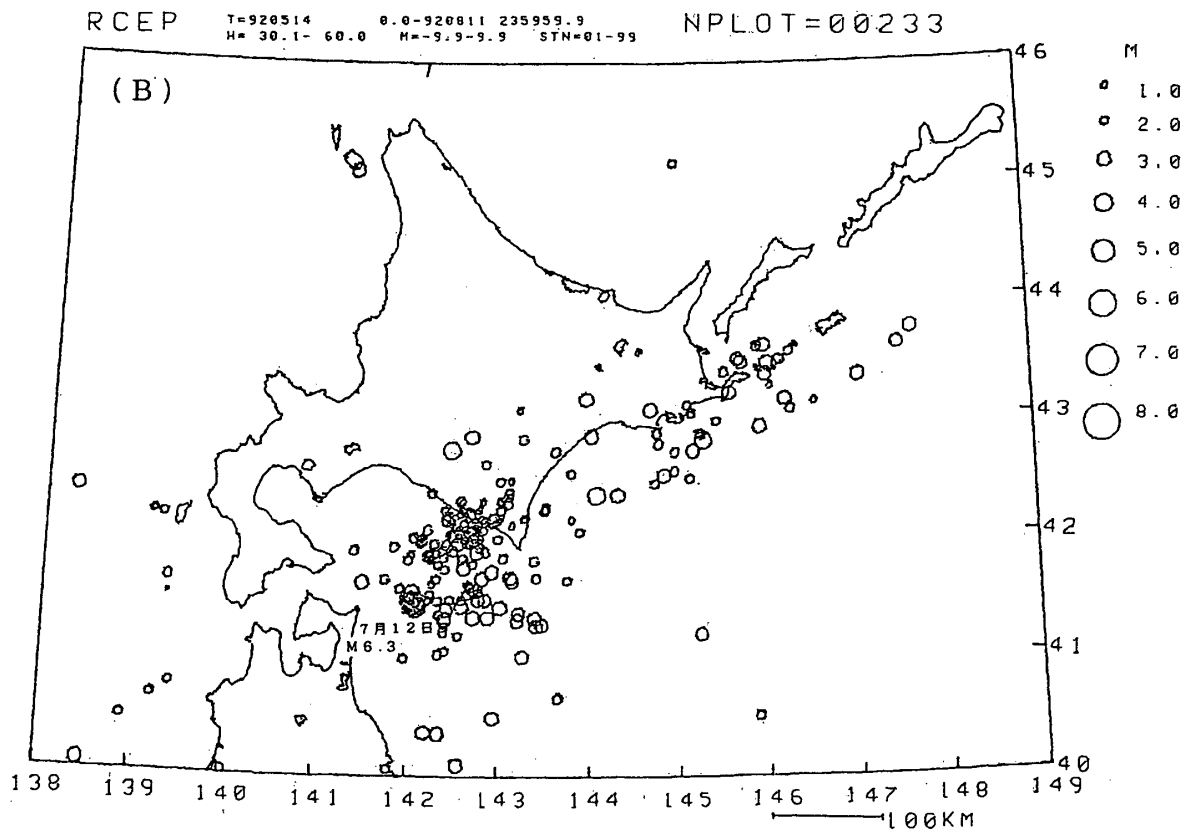
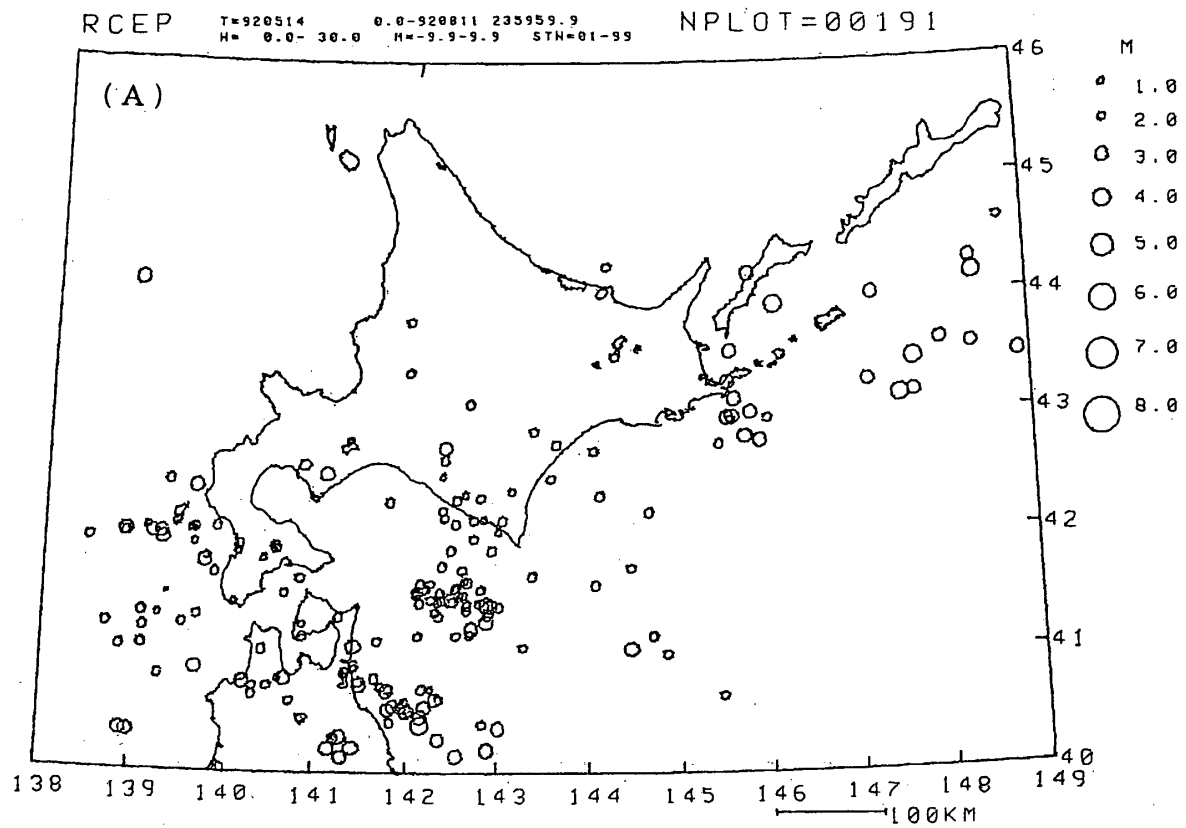
(本谷 義信)

第1表 千島列島南部と三陸沖の地震活動の呼応

Table 1 Correlative seismic activity between off Southern Kuril islands and off Sanriku.

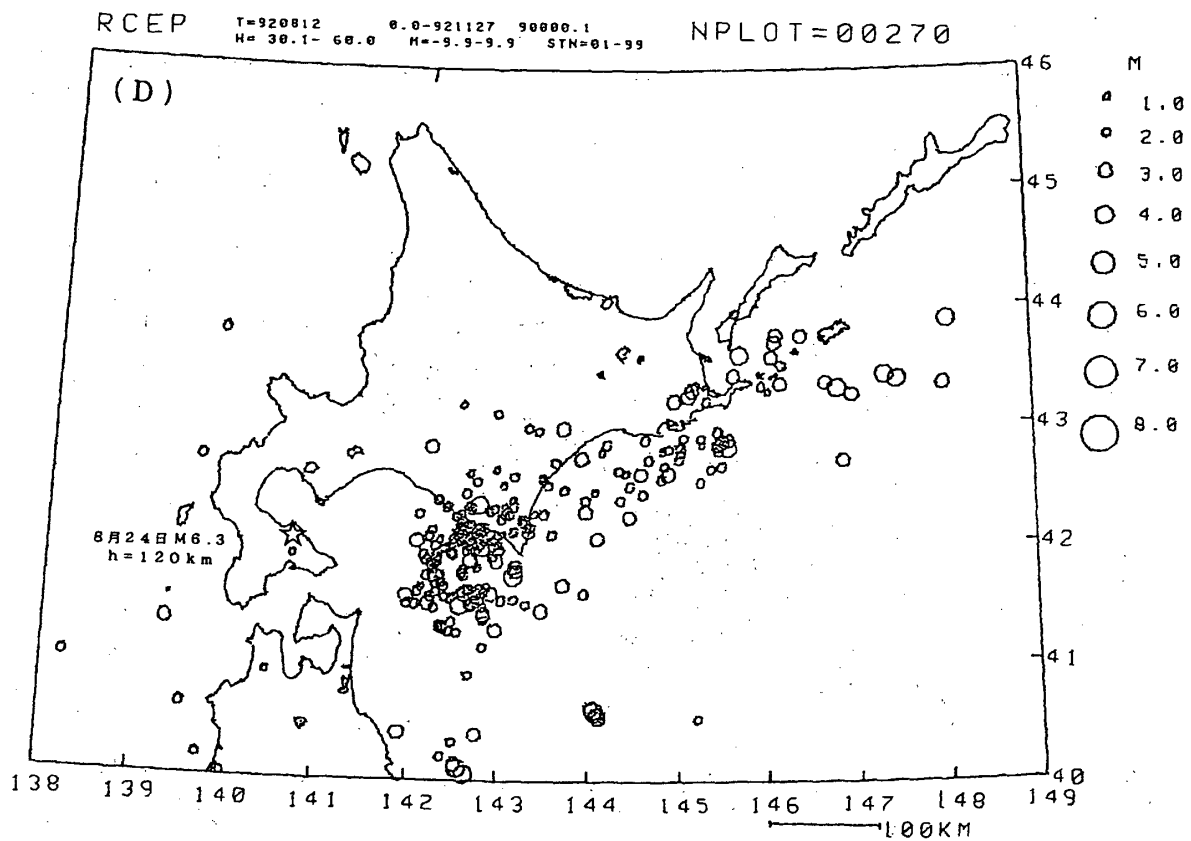
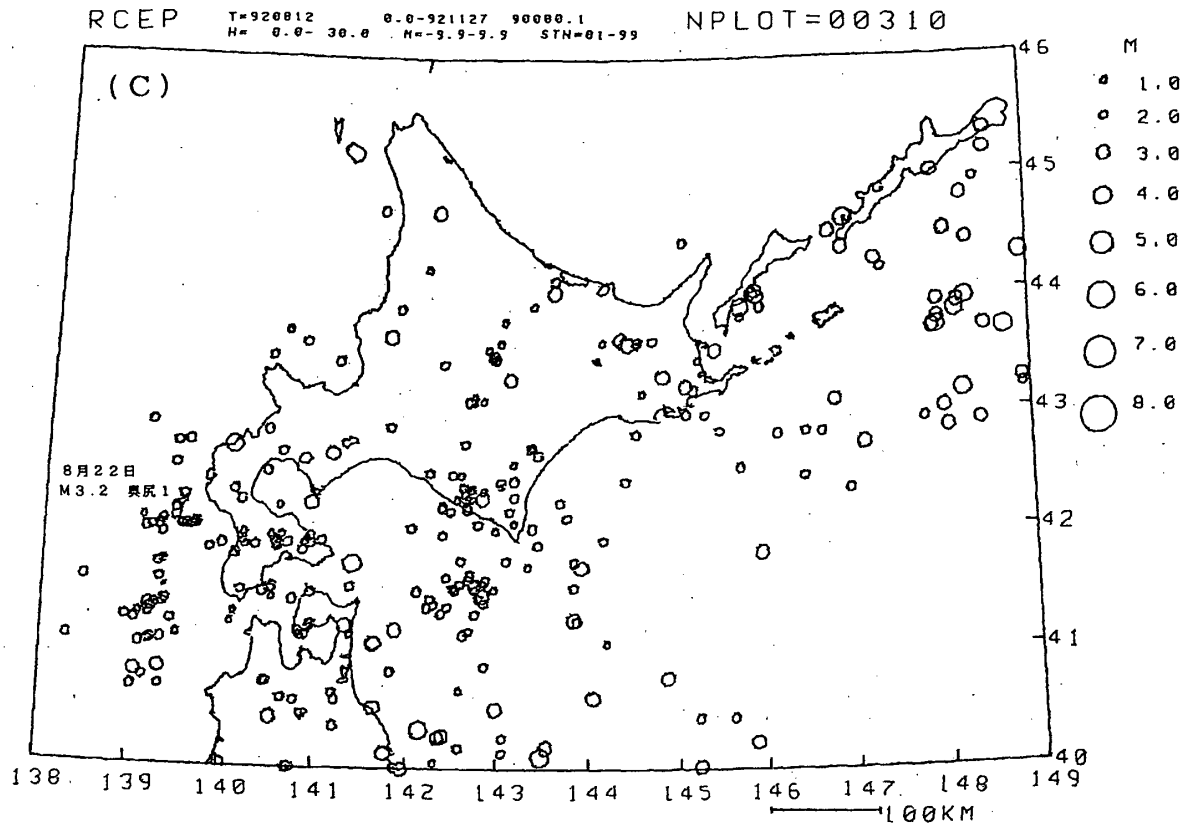
主活動	時間差	関連する活動
1968. 5. 16 M7. 9 十勝沖	4日	群発 M5. 8 エトロフ島沖
1969. 8. 12 M7. 8 北海道東方沖	-10日 8日	本震-余震 M5. 6 ウルップ島 群発 M5. 4 三陸沖
1978. 3. 22 M7. 3 エトロフ島沖	-30日	本震-余震 M6. 7 三陸沿岸
1989. 10. 27 M7. 1 三陸沖	(30日) 79日	浦河沖の地震活動活発化 前震-本震-余震 M5. 7 ウルップ島沖
1991. 12. 8 M6. 7 ウルップ島沖	-30日 -12日 -4日	浦河周辺の地震活動活発化 本震-余震 M6. 4 浦河沖 群発 M4. 4 三陸沖
1992. 7. 18 M6. 9 三陸沖	-8日 -6日	本震-余震 M6. 4 エトロフ島沖 (前震)-本震-余震 M6. 3 青森県東方沖

時間差 -は関連する活動が主活動に先行する場合



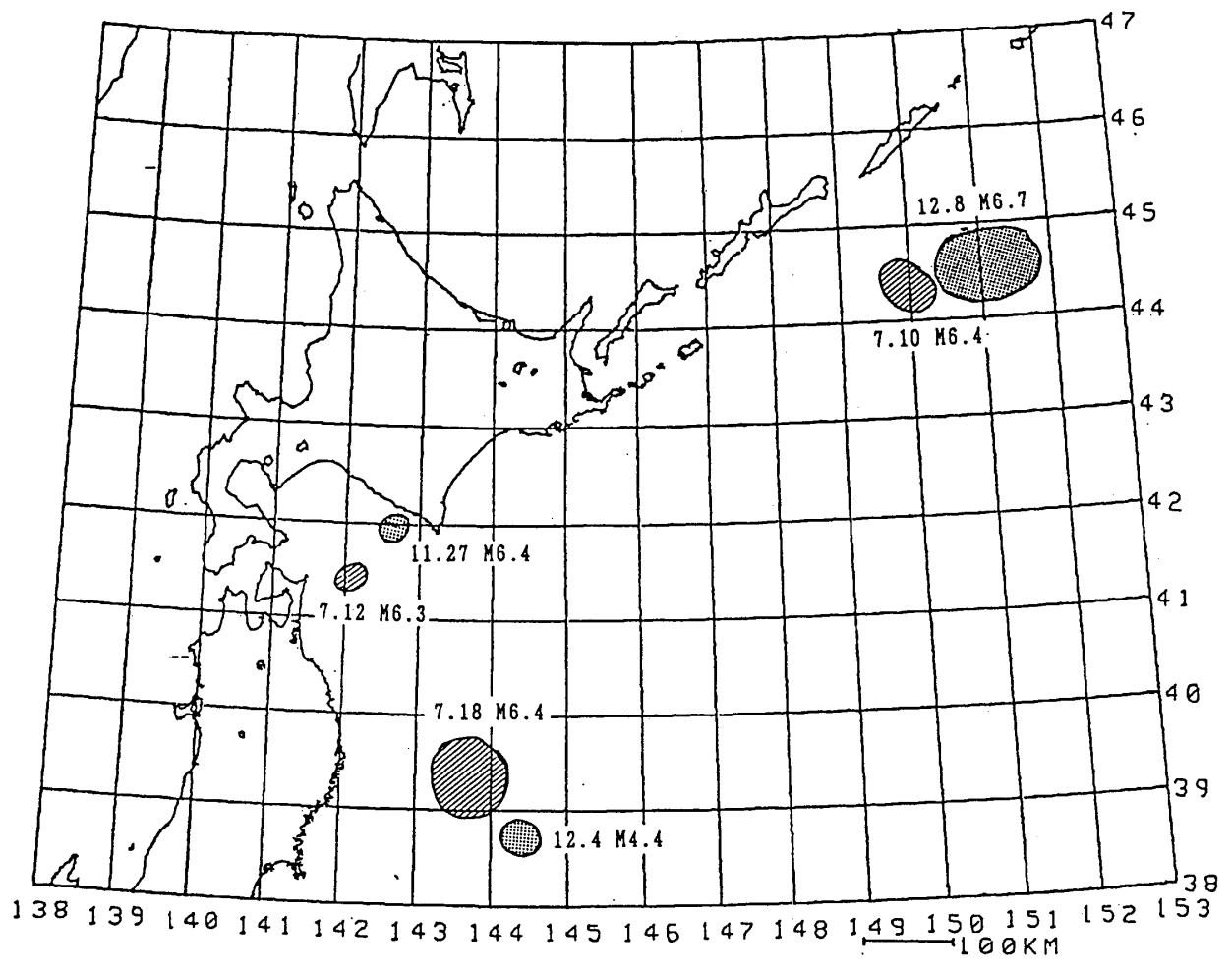
第1図 北海道とその周辺の浅発地震の震央分布。1992年5月14日～8月11日，(A)深さ $h \leq 30$ km，(B) $30 < h \leq 60$ km

Fig. 1 Epicenter distribution of earthquakes in and around Hokkaido. May 14–August 11, 1992. (A) Focal depth $h \leq 30$ km, (B) $30 < h \leq 60$ km.



第1図 つづき 1992年8月12日~11月27日, (C)深さ $h \leq 30$ km, (D) $30 < h \leq 60$ km

Fig. 1 (Continued) August 12–November 27, 1992. (C) $h \leq 30$ km, (D) $30 < h \leq 60$ km.



第2図 呼応した地震活動の活動域。砂目は1991年，網目は1992年。

Fig. 2 Two correlative seismic activities in 1991 (dot) and 1992 (slash).